

厚生福祉常任委員会

半澤利貞

所信表明前文

問 自分自身覚悟を持ってチャレンジする「覚悟」とは。

答 性別・職業を超えた多くの方々から提言を聞いて、これらの声にこたえ実現に向けて取り組むことを「覚悟」としている。

健康な暮らし

問 高齢者の健康増進サービスを充実させるための具体的方策は。

答 介護予防事業のPRに努め、事業への参加勧奨を勧める。閉じこもり防止や地域サロン事業を行っていききたい。

問 温水プールやけんこつ体操を広めるには、今のマンパワーで足りるのか。

答 一生懸命やっているので報酬などを手当てしていく。

問 高齢者世帯の生活支援で、民間企業を含めた具体的施策とは。

答 宅配サービスを利用しての買い物支援など、訪問する頻度の高い事業者と見守り体制を検討していきたい。

問 現役で働けるシルバー世代の就労の場の確保はどうするのか。

答 シルバー人材センターの就労の場の拡大を図り、介護職場では就労の場の創出をサービス事業者と検討する。

問 30代から人間ドックを可能にするのは、国民

健康保険から補助金を支出するのか。

答 国保加入者の人間ドック助成事業を現行40歳からの助成を、35歳からに拡大を検討する。対象者は150人ぐらいで受診率を高めていきたい。

問 75歳以上の者も人間ドックの受診を可能とするため、後期高齢者医療広域連合に要望する考えは。

答 国保加入者の人間ドックと同程度までの助成は難しいが、後期高齢者が人間ドックを受けやすくなるよう広域連合に要望すべく準備している。

工程表と中間評価

問 町民の皆様から中間地点で評価いただきたいとあるが、具体的な手法は。

答 具体的内容はまだ検討中であるが、例えば町民代表・マンション居住者の代表や民間有識者から評価委員会（仮称）を

設置して評価してもらい、その結果を広報やホームページでの公開を考えている。

